

あじさい
紫陽花'が見ごろの季節を迎えました。

館内入り口にも今年は生花の紫陽花を飾りました。

青と白の色彩が、蒸し暑さをやわらげてくれます。

館内では美術部の「春の陣」がはじまりました。

油絵の大作から、クレパスの小品まで

さまざまな作品が創造の世界に誘ってくれます。

7月7日の七夕の日まで鑑賞できますよ。



■ 今月の新着図書から ■



『読み終わらない本』 分類 369

若松英輔 / KADOKAWA

批評家の著者が、これまで出会った多くの作品のなかから厳選して紹介。しかし、単なる作品紹介ではありません。

一冊、一冊が「あなたはどうか生きるか」ということを問い、自分と向き合う時間をもつことの大切さを気づかせてくれる哲学書のような本です。手元において何かのときに読み返したい本でした。



『ディズニープリンセスのゆくえ』 分類 778

本橋哲也 / ナカニシヤ出版

白雪姫、シンデレラ、アナと雪の女王など、ディズニーに登場するさまざまなプリンセスを親子関係や恋愛観など、キーワードとともに分析しています。

時代とともに結婚で結ばれて終わる受動的展開から、能動的なプリンセスの登場など、ディズニー映画におけるジェンダー視点の変遷も興味深い。



『お茶のすすめ』 分類 791

川口澄子 / WAVE 出版

サブタイトルは「お気楽茶道ガイド」。お茶を習って15年の著者が、習っていて「おもしろい!」と感じたお茶の世界を漫画でつづっています。

茶道にたいする素朴な疑問や、初心者ならではの失敗談も正直に描かれているので、関心のない人にもおすすめ。ちょっとやってみたくくなりますよ。



『墨のゆらめき』 分類 913

三浦しをん / 新潮社

真面目で聞き上手なホテルマンの続(つづき)と、わけあり書道家の遠田。遠田は自由自在にあらゆる筆跡を書き分けることができる。そんな二人が出会い、ひょんなことからパディを組んで手紙の代筆業をすることに。

ちょっとずつ二人が距離を縮めて友情を築いていきます。



『物語の種』 分類 913

有川ひろ / 幻冬舎

コロナ禍に読者から募集した「話の種」のなかから10編を選んで書かれた短編集。テーマは「宝塚」や「猫」「高知」など、著者の有川さんの好きなものが選ばれている印象ではありますが、なかでも宝塚愛が強いです!

相変わらずユーモアを散りばめ、スピード感もある文体なので、期末テスト明けにぜひどうぞ。



『くもをさがす』 分類 916

西加奈子 / 河出書房新社

作家の西さんは、移住先のカナダので乳がんを発症。この本は彼女の闘病記ですが、「闘病とはいいたくない」という西さん。その真意はぜひ読んで知ってほしいです。重くなりそうな話を、カナダ人の病院スタッフの会話を関西弁にしたことで読みやすい。「日本人には情があり、カナダ人には愛がある」という一言が心に残る。

Oxford

A Very Short Introduction

シリーズをまとめて入れました!

日本では「一冊でわかるシリーズ」として岩波書店から翻訳版が出版されている、オックスフォード出版の「A Very Short Introduction」シリーズ。

「法律」「遺伝子」「戦争と宗教」「公民権運動」「平和」「アフリカ系アメリカ人」……など、多様な分野をテーマごとに1冊でまとめ、概略を解説している英語のシリーズです。

「このシリーズがまとめて入っているといいな」という生徒からのリクエストがありましたので、今後も出版年の新しいものから蔵書を増やして行く予定です!



●今月の主な館内展示

「難民・移民について」の図書展

6月20日は国連が定めている「世界難民デー: World Refugee Day」です。

この日にあわせ、メディアセンターでは毎年6月は難民と移民をテーマとした図書展示をしています。

ノンフィクションはもちろん、難民をテーマとした小説や絵本もならべています。

<ノンフィクション>

『ボーダー 移民と難民』佐々涼子 集英社インターナショナル

『移民や難民ってだれのこと?』マイケル・ローゼン 創元社

『となりの難民』織田朝日 旬報社

『わたしは13歳、シリア難民』国境なき子どもたち 合同出版

<フィクション>

『ザ・デイスプレイスト』ヴィエト・タン・ウェン ポプラ社

『明日をさがす旅』アラン・グラッツ 福音館書店

『難民になったねこ クンクーシュ』マイン・ヴェンチャーラ かもがわ出版



など、このほか多数!

本棚 今年は今期
末テストが七月から
六月となり、「テス
ト勉強をしないとな
らないから、今は本
を読むのは我慢して
る」という声が。放
課後も静かに勉強を
している人の姿が見
られます。◀一方でス
ポフェス前の五月から
図書委員会では九月
のスクフェス準備をは
じめています。スクフ
エスに参加する委員
会は少ないですが、一
回生の頃からほぼ毎
年図書委員会は参加
してきました。九月に
なると学年や部活の
出し物準備で忙しく
なるために、早めに準
備をしておく、という
伝統が続いているよ
うです。お昼休みもク
イズの景品になる「ミ
二本」作りをしていま
す。今年のスクフェス
は一般の来場者もこ
られるようになり、小
さい子どもたちにも
楽しめる絵本の空間
を予定しています
(渡邊)